

兵庫県下における新体操教室の実態について その1

伊 達 萬里子

(武庫川女子大学文学部教育学科体育専攻)

An Investigation into the Actual Condition of Rhythmic Sports Gymnastics Club in Hyogo (No.1)

Mariko Date

*Department of Physical Education, Faculty of Letters,
Mukogawa Women's University, Nishinomiya 663, Japan*

A rhythmic sportive gymnastics events is held and guided the administration plan to success that it advance preparations is necessary.

Make a prudent plan is necessary in to asystematic study and administration according to the scale and the type.

An interscholastic athletic meet of rhythmic sportive gymnastics is to be held in Kobe the current year.

I made an administration plan in regard to events holl.

We must control an athletic meet so that the whole manual will be managed rationally, put a construction events holl and the duties contain into practice with certainty.

This is the only and reliable method that has been confirmed investigation about an administration plan and enforment of rhythmic sportive gymnastics.

緒 言

現代社会において人々の健康は経済文化のめざましい発展に反比例し、体力は低下しつつある現状と言える。このため社会体育の振興を唱え、健康の増進と体力の向上を計り、さらに生涯体育へと発展する能力を養う目的の各種教育の繁栄振りは目を見張るものがある。

その中であって体操は健康維持増進のために意図的に作られた運動であり、年齢を問わず誰でもが楽しめるものである。

しかしながら以前からの無味乾燥な形式体操では飽き足らず、内面へ働きかける体操として発展して来たのが新体操である。

新体操は時代と共に進歩し、1984年ロスオリンピックを契機に国民の間にも親しまれ、学校や社会体育等でも盛んに実施される様になって来た。新体操の自然でリズムカルな動き、優美な表現、興味ある手具操作、さらに演技と調和し引き立たせる伴奏音楽等は芸術とも言え、人々に大きな感動を与えるのである。

これらの特性が女子に最も人気あるスポーツの1つとして現在全国有数の教室があり、兵庫県においても盛んに行われているのである。

今回はこの新体操教室に在籍している児童・生徒が自身の要因としてどのような目的意識を持って参加しているのか、身体的、精神的にはどのような影響を与えているのであろうかを分析しようと思う。又合わせて背後の家庭的要因である家庭環境とも比較しながら実態を把握し、今後のより良い方向性を見出したい。

研究方法

- 調査期間 平成元年6月中旬～平成2年4月上旬
- 調査対象 兵庫県下の新体操教室に所属する6～14才の女子と両親(100家族)

6才児	3名	9才児	9名	12才児	8名
7才児	11名	10才児	24名	13才児	8名
8才児	13名	11才児	18名	14才児	6名

 (平成2年1月現在)
- 調査方法 質問紙法によるアンケート調査(回収率 84%)

結果と考察

最初に児童・生徒の運動に対する意識を調査してみる事にした。

1. 運動の好嫌

Table 1. Likes and Dislikes of Sports

	n=100	
1. 好き	94名	94%
2. 嫌い	1名	1%
3. どちらでもない	5名	5%

Table 2. Likes and Dislikes of Physical Education

	n=100	
1. 好き	88名	88%
2. 嫌い	1名	1%
3. どちらでもない	11名	11%

Table 1から、ほとんどの児童・生徒が好きであると答えている。1名の嫌いと回答した者は所属の理由として母親からの勧めでやせたいのと述べている。(Table 1～2を χ^2 -検定, $\chi^2=2.448$ 有意差無し)

Table 3. Likes for Items of Sports

種 目	n [*]	%
1. 体操	51名	58
2. 器械体操	40名	45
3. 球技	35名	39
4. 陸上	44名	50
5. 水泳	52名	59
6. ダンス	44名	50
7. 格技	4名	5
8. その他	6名	7
9. 無回答	2名	2

n^{*} = 重複回答

学校での体育の授業の調査からはどちらでもないがやや増加している。これらは運動する以外の要因が含まれるのではなかろうか。嫌いの1名はTable 1で回答した同一者である。

Table 2で好きと回答した児童・生徒に運動種目を選択させた所、体操、陸上、水泳、ダンスが高い%を示している。この中で器械体操やダンスは比較的一般の児童生徒に敬遠されがちであるが運動の領域が重なる部分も新体操には多く含まれているためか%が高くなっている。

次に学校以外で習い事を実施しているか(新体操を除く)どうかを調査し特徴を見る事にした。

2. 習い事に関して

Table 4. Put int Lessons and Put out

		n=100
1. 通っている	89名	89%
2. 通っていない	11名	11%

Table 5. Kinds of Lessons

種目	n"	%
1. 塾	28名	31
2. ピアノ	42名	47
3. そろばん	12名	13
4. 書道	14名	16
5. 絵	1名	1
6. スイミング	11名	12
7. バレエ	26名	29
8. 体操	1名	1
9. 器械体操	1名	1
その他	23名	26

n" = 重複回答

Table 4 より 90% 近い者が通っていると答え、新体操を含めると週 2 日以上となり多い者は 6 日と回答している。これは現在社会の教育に対する傾向がそのまま伺える点である。Table 5 からその種類としてピアノが半数近い % を占め、以下塾、バレエと続く。ピアノに関しては音と動きのリズムの調和に関して有効であり、又新体操の演技を個性的に印象づけるためにも曲の構成が大事になってくる。さらに情緒的にも影響を与えるのではなかろうか。バレエに関しては新体操の基本トレーニングとしてバーレッスンは欠く事の出来ないものであり幼少より実施している者は身体的支配能力が高く高度の難度要素を含む演技が行えるのである。

その他としてミュージカル、ブラスバンド等の回答があった。これらも関連があるのではなかろうか。

3. 新体操教室に所属した動機について

Table 6 から何故新体操を始めたのかを聞いてみると楽しそう、おもしろそうが多く、テレビ等のマスコミの影響も挙げられている。

Table 6. A Motive for belong to Club

種目	n"	%
a. 母親に勧められて	30名	30
b. 父親に勧められて	0名	0
c. 家族に勧められて	4名	4
d. 先生に勧められて	2名	2
e. 友人に勧められて	15名	15
f. テレビで見て興味をもったから	40名	40
g. 本、雑誌で見て	3名	3
h. 綺麗だから	27名	27
i. 楽しそうだから	47名	47
j. レオタードが着たいから	7名	7
k. 手具がおもしろそうだから	37名	37
l. 試合に出てみたいから	12名	12
m. 体力の向上があるから	3名	3
n. 痩せたくて	8名	8
o. 運動不足を解消するため	1名	1
p. 健康に良いと思ったから	18名	18
q. 体を柔らかくしたいから	29名	29
r. 友人が欲しいから	6名	6
s. その他	12名	12

n" = 重複回答

又3人に1人の%で母親の勧めがあり関心度の高さを示しているのではなからうか。
 身体面からは柔軟性を発揮する特性からかやはり高い%である。

4. 実際に新体操を始めた年齢に関して

Fig.1より6~7才が半数を示し8~9才は $\frac{1}{3}$ 弱になる。これは小学校入学から中学年にかけてである。外国を例にとるとブルガリア、ソ連等は3才位から始めるため12~13才ですばらしい選手に育つ。

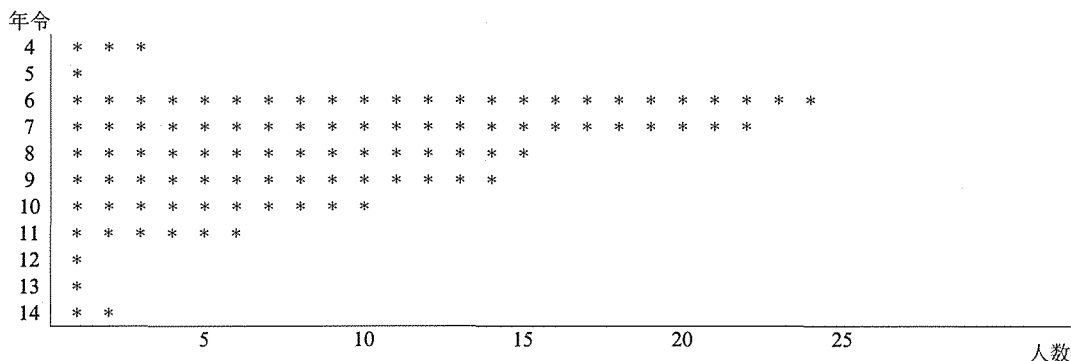


Fig. 1. Began to Rhythmic Sports Gymnastics.

5. 新体操に所属して感じた事柄について

精神面と身体面に関して集計したところ表には挙げていないが、82名以上の者が楽しくて上手になりたい、もっと続けたいと思っている。又手具のおもしろさにひかれ、華やかなレオタード着用を希望する者も50名以上となっている。

又対人関係から友人が増え試合にも積極的に参加したいと考えている様である。

次に身体的に変化した事柄で80%近くの者が柔軟な体になったとしている。体力向上、健康、リズム感、筋力、バランス感覚を得たとした者も高い%を示している。精神面と身体面とを比較すると精神的に満足している者が高い様に思う。

6. 所属して現在自分自身で判断した精神的、身体的特徴について

Table 7. Give me Yours Characteristic

(1)Mental Characteristic				(2)Physical Characteristic			
項目	はい	いいえ	普通	項目	はい	いいえ	普通
a. 明るい	71%	0%	29%	a. 器用	38%	7%	55%
b. 活発	61%	8%	31%	b. 手足が長い	19%	5%	76%
c. 友人が多い	55%	3%	42%	c. 体が柔らかい	37%	10%	53%
d. 勉強が出来る	23%	3%	74%	d. 体力がある	52%	4%	44%
e. 積極的	21%	7%	72%	e. 健康	84%	1%	15%
f. 真面目	35%	1%	64%	f. スマートである	22%	10%	68%
				g. 背が高い	30%	24%	46%
				h. 右利き	83%	4%	*13%

$\chi^2=103.719$ d.f.10, $P=0.01$ 有意差有り

$\chi^2=211.796$ d.f.14, $P=0.01$ 有意差有り

*...両手利き

Table 7より60%の児童・生徒が明るく、活発で友人が多い性格である。勉学に関しては70%余りの者が普通と回答している。身体的には健康な者80%余り、体力のある者50%余りと回答している。20%余りの者は太っていると回答しているが、身長、体重から考慮すると普通に近い数値を示す。利き手に関して4%が左利きで13%の者が両手利きとなっているが、新体操にとって左右同じ様に使用して動く事が大事であるため、少なからず優位に立つことが出来る。

7. 試合経験について

Table 8. Experience of Game

	n=100	
1. 有る	16名	16%
2. 無い	82名	82%
3. 無記入	2名	2%

Table 8から出場経験は16%であった。新体操のジュニアの試合は年間に2~3回位しかなく、中日本、全日本は予選があるため大半の者は出場出来ない。又試合に出場するためには2種類の手具を使用して各種運動要素群を満足させなければならず、最低でも2~3年の日数を要するからである。

しかしながら全国大会、国際大会等の試合を見学し、目標とする選手を挙げており意識は高い様である。パノバ、秋山エリカ等は4人に1人が好きな選手として回答している。

8. 好きな手具に関して

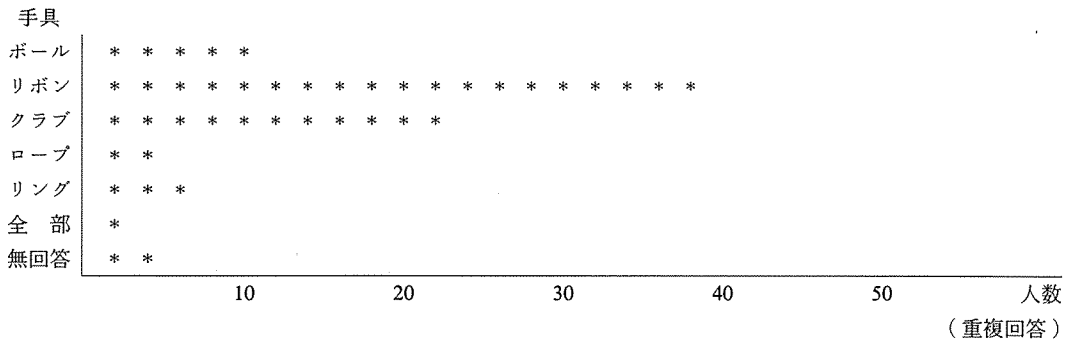


Fig. 2. Likes of Gymnastics Thing.

Fig.2からやはり優美なリボンを好む児童、生徒が多く60%であった。ロープは6%で見た目の美しさにやや欠けるからであろうか。今後使用したいとしている手具の項でもロープが3%であった。

9. 家族の運動経験について

Table 9. Experience of Sports Parental

		n=100			
1. 有る	父親 76名 76%	母親 71名 71%			
2. 無い	父親 19名 19%	母親 28名 28%			
3. 無記入	父親 5名 5%	母親 1名 1%			
		$\chi^2=3.743$ 有意差無し			

Table 11. Interest in Sports

		n=100			
1. 有る	父親 85名 85%	母親 82名 82%			
2. 無い	父親 4名 4%	母親 1名 1%			
3. どちらでもない	父親 11名 11%	母親 17名 17%			
		$\chi^2=3.138$ 有意差無し			

Table 10. Parental Likes and Dislikes of Sports

		n=100			
1. 好き	父親 76名 76%	母親 64名 64%			
2. 嫌い	父親 4名 4%	母親 4名 4%			
3. どちらでもない	父親 20名 20%	母親 32名 32%			
		$\chi^2=3.798$ 有意差無し			

Table 12. Present Circumstances at Enforcement of Sports

		n=100			
1. 実施している	父親 51名 51%	母親 37名 37%			
2. 実施していない	父親 49名 49%	母親 63名 63%			
		$\chi^2=6.8$ d.f.1, P=0.01 有意差有り			

父親と母親に学生時代の運動経験と運動に対する好嫌、及び関心度を聞いてみた。

Table 9から父親で76% 母親で71%の者が経験が有ると答え関心度も両親共80%以上で非常に高い%を示している。好嫌に関しても76%、64%と総合的に判断して高いのではなかろうか。只現在の運動実施状況においては、仕事や家庭の関係で%が低くなるが、それでも父親の2人に1人は実施していることになる。

実施種目に関しては、父親はやはりゴルフ、テニス等が多かった。母親はテニス、各種体操が挙げられている。

10. 子供が所属してから気付いた事柄に関して

Table 13. You Sensed Something for Belong to Club

		n=100		
項 目	はい	いいえ	変化無し	
a. 性格が明るくなった	31%	0%	69%	
b. 忍耐強くなった	43%	0%	57%	
c. 協調性ができた	30%	0%	70%	
d. 積極的になった	32%	0%	68%	
e. 責任感が強くなった	25%	0%	75%	
f. 自主独立性が出てきた	32%	1%	67%	
g. 礼儀正しくなった	27%	1%	72%	
h. 時間に正確になった	31%	1%	68%	
i. 食物の好き嫌いがなくなった	14%	2%	84%	
j. 健康になった	55%	0%	45%	
		$\chi^2=56.421$ d.f.18, P=0.01 有意差有り		

以前と比較して子供の性格等がどの様に変化してきたかを聞いてみた。

Table 13より43%で忍耐強くなったとしており、性格が、明るくなった、協調性がでて来た、積極的になったが30%前後の%を示している。但し以前からの性格であると回答し今回は変化無しの%になっているものがあり、全体としては良い傾向であると言えよう。又身体的にも55%で健康になったとしている。次にTable 14から考慮して家族としては非常に好意的に受け入れているようである。

Table 14. Hope of Keep on Belong to Club about Rhythmic sports Gymnastics

	n=100	
1. はい	84名	84%
2. いいえ	1名	1%
3. わからない	15名	15%

11. 新体操の続行希望の有無に関して

Table 14 から 84% の高い % で続行を希望しており、理解されているのではないだろうか。いいえと回答した者が 1% あったがそれは Table 13 で時間にルーズになった、依存型、態度が悪くなったためとしている。

12. 新体操の試合参加や入賞希望の有無について

Table 15. Hope of Take Part in the Game

	n=100	
1. はい	69名	69%
2. いいえ	10名	10%
3. わからない	21名	21%

Table 16. Hope Won the Prize

	n=100	
1. はい	54名	54%
2. いいえ	12名	12%
3. わからない	34名	34%

Table 15, Table 16 から 69% の者が参加させたい希望を持っている。但し 21% のわからないとした中で本人の気持次第との回答が大半であった。(Table 14~16 を X²- 検定, $\chi^2=29.716$, d.f.4, P=0.01 有意差有り)

まとめ

新体操教室に所属している児童・生徒の現状は、全体的に非常に高い割合で運動が好きであり、楽しそう、おもしろそうという興味度の点がウェイトを占めている。精神的にも陽性であり、身体的には健康で体力があるためほとんどの児童・生徒が今後も続けたいとしているのであろう。又この様な子供に対して両親は自分自身の運動に対する意識の強さが十分な理解を示し、更に運動する事が好きという家庭環境を生み出させるのであると言える。

新体操を続ける事によって、豊かな創造性を培い、自由な表現を楽しみながら、現代社会の合理的な機械リズムの生活の中で、自然のリズミカルな動きを取り戻す事が出来るであろう。

今回は新体操教室の生徒側からの調査を行ったが次回は指導者に対する資料を揃え両者の関係がうまく成立し新体操の今後の発展のため問題点を追究して行きたい。

文 献

- 1) 遠山喜一郎, 関田史保子, 高橋衣代, 長谷川洋子, 小林由美子, 新体操・上, 不味堂出版, p.3(1981).
- 2) 石崎朔子, 新体操研究会, 中学校の新体操, 明治図書, pp.17~21, pp.25~27(1985).
- 3) リンツカヤ T.S.(加茂佳子, 本多英男訳), ソ連の新体操, 不味堂出版, pp.182~183(1989).
- 4) 藤島八重子, ビューティフルスポーツ新体操, KK ぎょうせい, p.7(1984).
- 5) 加茂佳子, 図解コーチ新体操, 成美堂出版, pp. 8~9(1978).
- 6) 伊達萬里子, 日本体育学会大会号, 40, p. 576(1989).